

平成28年度 学校評価結果について

1 アンケート調査結果による自己評価と学校関係者評価

アンケートの選択肢（A よくあてはまる・B ややあてはまる・C あまりあてはまらない・D 全くあてはまらない・E わからない）のうち、AとBの合計の割合をプラス評価、CとDの合計の割合をマイナス評価と捉え考察している。

(1) アンケート調査結果のまとめと考察（○良い点 ●改善が必要な点）……自己評価

① 児童

「学校生活に関する項目」では、80%から90%の児童がプラス評価をしている。また、「自分の生活に関する項目」では、70%から80%の児童がプラス評価をしている。

- 「先生はあなたのことを分かってくれている。」のプラス評価が、9%向上し90.8%となった。児童と教師との良好な人間関係が構築されてきた結果である。年間を通して、生徒指導や児童理解のための研修会等を継続して実施してきた成果でもある。
- 「授業中、先生や友だちの話をきちんと聞いている。」のプラス評価が、4%向上し84.9%となった。学習における「聞く」という基本的な構えが定着しつつある。
- 「元気いっぱい過ごして、健康管理や体力づくりをしている。」のプラス評価が、2%向上し80.9%となった。運動場整備工事が8月に終了し、運動場での通常の活動が2年半ぶりに再開できたことが大きな要因であると考えられる。また、講師を招聘しての体力づくりへの取り組みも、徐々に成果を上げてきている。
- 「交通のルールを守って、生活している。」のプラス評価が、3%向上し91.4%となった。保護者や地域の方々、教職員によるパトロールや立哨指導の成果が出ている。今後、自転車運転時におけるヘルメットの着用率100%をめざして、交通安全指導をより徹底していく必要がある。
- 「授業（勉強）はよく分かる」のプラス評価は92.3%と良い傾向であるが、昨年と比較して6.1%下がっている。今後は、個別指導を徹底する等よりきめの細かい支援を続けていく必要がある。
- 「授業中、進んで発表しようとする。」のマイナス評価は56.6%で、今後の大きな課題となった。授業内容の理解のプラス評価が90%を超えている点から考えると、分かっているが発表はしない傾向が強くあると思われる。今後は、児童の表現力を高めていくための指導を重点的に行っていく必要がある。
- 「家庭でも毎日勉強をし、宿題などの忘れ物はほとんどしない。」のプラス評価は7%下がり66.5%となった。家庭での学習習慣の定着を図るために、保護者とも連携しながら「家庭学習の手引き」等を活用した家庭学習の仕方を継続して指導していかなければならない。
- 「給食は、好ききらいしないで、できるだけ残さず食べている。」のプラス評価は4%下がり、79.2%となった。「残食ゼロリンピック」や「食育パワーアップ作戦」の取り組みと関連させながら、更なる食育指導の充実を図る必要がある。

② 保護者

本校の教育活動について、常にご理解とご協力をいただいております。全項目の7割以上が80%を超えるプラス評価となっている。

- 「学校は、分かりやすい授業に努めている。」「学校は、あいさつ等の生活指導に努めている。」の両項目において、プラス評価は80%を超えている。児童の学習成果や日頃の生活態度から判断していただいた結果であるが、更に学習・生徒指導面の充実を図っていきたい。
- 「運動会や遠足等の学校行事の内容が適切である。」のプラス評価は、90%を超えている。学校行事の精選やその内容に工夫を凝らした取り組みが評価されたと考える。子どもたちは、学校行事をとっても楽しみにしているという保護者からの意見も多い。
- 「学校は、教育環境の整備に努めようとしている。」のプラス評価は、約90%となっている。校舎や体育館が新築され、教育環境が従来に比べて非常に整ってきた結果だと思われる。今後は、更に新しい施設や設備を十分に活用した特色ある教育活動を推進していかねなければならない。
- 「学校は、教育方針を分かりやすく保護者や地域に伝えている。」のプラス評価は80%を下回り73.4%となっている。今後は、学校から保護者や地域への情報発信の方法を更に工夫していく必要がある。
- 「お子さんは、健康管理や体力づくりができています。」のプラス評価は80.1%であるが、昨年より7.5%下がっている。児童アンケートではこの数値は上がっていたが、保護者から見た場合は、十分でないことが分かる。今後は更に、体力づくりへの取り組みが継続して行えるような手立てを考えていく必要がある。
- 「学校行事やPTA活動などに、積極的に参加するようにしている。」のプラス評価は、63.2%であった。運動会のボランティア等で積極的に協力してくださる保護者の方も増えてきているが、今後は「是非参加しなければと思うようなPTA活動」「子どものためのPTA活動」をめざして、役員の方とも相談しながら、行事の精選や内容・運営方法の工夫をしていかなければならない。

③ 教職員

本年度も沖洲小学校グランドデザインに基づき、全教職員の共通理解のもと学校教育目標の実現をめざして、教育活動に取り組んできた。

- 学校教育目標実現に向かって、学校運営されている。
- 学習指導計画に沿って、基礎基本を重視した分かりやすい授業を行っている。
- よりよい仲間づくりを通して、思いやりの心を育成するよう努めている。
- 特別な支援を必要とする児童への校内支援体制が整備されている。
- 様々な問題が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている。
- 校内における共通理解や協働体制が十分でない場面がある。
- 基本的な生活習慣（規則の遵守・あいさつ・言葉遣い等）の定着に関する指導が十分でない。
- 地域や関係諸機関と連携した取り組み（交流学習・ゲストティーチャー等）をしているが、事前準備等のきめの細かさが不足しており教育効果が十分にあげていない。
- 「自ら学び自ら考える力」が付くよう授業を更に工夫改善していく必要がある。

(2) アンケート調査結果に基づいた学校関係者の意見・・・学校関係者評価

①学校からの情報発信について

- ・従来のように学校便りや学年便り、ホームページでの情報発信も良いが、学級通信が最も効果があると思う。学級担任の目でクラスを見た情報等、大変親近感がわく。子どもがイラストを描く等して、担任と子どもが一緒につくる学級通信が理想である。

②教育環境整備について

- ・新築の校舎で設備も整ったすばらしい環境で教育活動が進められているが、校舎全体を見渡すと掲示物が少ない。掲示版等を更に整備していく必要がある。

③学校行事・地域行事について

- ・保護者は、学校や地域の行事には非常に関心があり、期待もしている。行事の内容を更に工夫し、参加したいと思う魅力的な行事を行ってほしい。

④あいさつ等の生活指導について

- ・あいさつはコミュニケーションの基本である。家庭にも協力してもらい習慣づけることが重要である。現在実施している各学級単位の挨拶運動は、とても良い取り組みである。

⑤児童の学習への取り組みについて

- ・「家庭学習の手引き」等を活用し、家庭学習をより充実させていく必要がある。学校での学習と家庭での学習の充実が学力向上につながっていく。教職員が児童や保護者に家庭学習の重要性を十分に説明し、意識させていくことが大切である。

⑥児童の健康管理や体力づくりについて

- ・健康が全ての活動の基盤である。校舎の新築に伴い2年半の間、運動場が使用できなかったため、児童の体力や運動能力に影響がでていないか心配である。新体育館や運動場が完成したので、様々な工夫を重ねて児童の体力・運動能力の向上に取り組んでほしい。また、本校は、スポーツ少年団活動へ参加している児童の割合が少ないと感じる。社会体育での活動も児童の体力・運動能力の向上につながっていく。

⑦PTA活動について

- ・PTAの役員の方々は、本当に一生懸命に取り組んでいる。PTA総会や様々な行事の中で、PTA活動について保護者に周知し協力をお願いしていくとよい。内容や運営方法を見直し、より魅力的で参加しやすいPTA活動をめざしてほしい。

⑧防災教育について

- ・防災面でも優れた機能をもつ新校舎の特徴を生かして、来年度は更に防災教育を推進してほしい。地域との合同避難訓練の回数を増やすなどして、地域との絆を深めていくことが大切である。

2 今後の学校教育改善方策について

○学校運営について

- ・児童や保護者、地域の実態に合わせて沖洲小学校グランドデザインを改善していく。
- ・全教職員が、年間を通してグランドデザインを意識した協同的な取り組みができるような方策を検討していく。

○確かな学力の向上について

- ・学習効果を高めるための指導形態について、T・T 指導だけでなく、少人数指導や少人数習熟度別指導も視野に入れて、校内体制を整備していく。
- ・通級指導教室（のりっこ教室）やリソースルーム（ねぎっこ教室）の機能を十分に生かし、個に応じたきめの細かい指導を充実させていく。
- ・家庭学習の定着を図るため、「家庭学習の手引き」の改訂や本校独自の「家庭学習ノート」の作成について検討していく。また、様々な機会を通して、家庭学習について保護者の理解や協力を呼びかけていく。

○豊かな人間性の育成について

- ・偏見や差別を許さない人権教育、自他を大切にする道徳教育を更に推進していく。
- ・よりよい仲間づくりを通して思いやりの心を育成していくために、縦割り班による異学年集団活動等を取り入れていく。

○健やかな体と体力づくりについて

- ・運動の楽しさを大切にした体育授業をめざして、指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。
- ・体育的行事の内容を見直し、年間を通して児童の体力・運動能力の向上が図れるようにしていく。
- ・食育指導の充実を図ると共に、望ましい食習慣の定着に向けて、家庭と連携して取り組んでいく。

○信頼される学校づくりについて

- ・参観授業、オープンスクール等の学校公開や学校・学年便り、学級通信、学校ホームページ等による情報発信を更に充実させていく。
- ・地域や関係諸機関との連携を強化し、子どもの安全確保に向けた取り組みや健全育成に向けた取り組みを再検討していく。
- ・地域の教育力を生かした取り組み（交流学习・ゲストティーチャー等）を工夫し、教育的効果がよりあがるようにしていく。

○防災教育について

- ・児童の防災意識の向上を図るために、地域や保護者と連携した訓練の回数や内容を見直し、計画的に実施していく。
- ・避難所機能をもつ学校として、地域や保護者に対して、新校舎の防災施設や設備の周知を更に行っていく。